

得点	演習問題			実施日	月	日	氏名
	単元名:室町時代 ④						

【1】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

1334年、(①)は年号を改めて、公家と武士をまとめて、自ら天皇中心の政治をはじめました。これを(②)といいます。

しかし③武士の力で鎌倉幕府をたおすことができたのに、公家に有利な政治を行いました。そこで、(④)はこの政治に不満な武士を集めて兵をあげ、天皇にそむきました。天皇は少数の貴族や武士とともに吉野にのがれました。

いっぽう、(④)は京都に別の天皇をたてて政治をはじめ、(⑤)年に征夷大將軍に任ぜられました。このため、2つの朝廷が成立しました。吉野方を(⑥)といい、京都方を(⑦)といい、両者は60年近く対立をくり返しました。

- (1) 文中の(①)にあてはまる人物を答えなさい。
()
 - (2) 文中の(②)にあてはまることばを答えなさい。
()
 - (3) 文中の下線③に関係の深い人物を次から選んで、記号で答えなさい。
()
- ア 楠木正成 イ 山名宗全 ウ 北条早雲 エ 細川勝元
- (4) 文中の(④)にあてはまる人名を答えなさい。
()
 - (5) 文中の(⑤)にあてはまる西暦を答えなさい。
() 年
 - (6) 文中の(⑥)・(⑦)にあてはまることばを、それぞれ漢字2字で答えなさい。
⑥() ⑦()

【2】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

室町幕府の力が、最も強くなったのは、3代將軍(A)のころでした。そのころ、朝鮮や中国の沿岸には、(B)と呼ばれる海賊が現れて、あらしまわっていました。このような動きに対して、①中国の皇帝は、この取り締まりを要求してきました。幕府はこの要求にこたえるとともに貿易の利益に目をつけて、②正式な貿易を開始しました。それは、初めは幕府が中心となって行われましたが、のちには細川氏と③中国地方の有力な守護大名の手にうつりました。

- (1) 文中の(A)にあてはまる人物を答えなさい。
()
 - (2) 文中の(B)にあてはまることばを答えなさい。
()
 - (3) 文中の下線①について、このときの中国の国(王朝)を何といいますか。漢字1字で答えなさい。()
 - (4) 文中の下線②について、この貿易を何といいますか。
()
 - (5) 文中の下線③について、この守護大名はだれですか。次から選んで記号で答えなさい。()
- ア 武田氏 イ 上杉氏 ウ 今川氏 エ 大内氏

(6)この貿易で生糸、書籍、書画などの他に、最も多く輸入されたものを漢字2字で答えなさい。()

【3】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

室町時代は農民が成長した時代でした。山上憶良が「貧窮問答歌」によんだ奈良時代の農民の生活とは違って、農業生産の高まりとともに、以前より豊かな生活ができるようになりました。

それは、牛や馬などを使った田畑の耕作、米と麦の(A)、肥料の使用などによる収穫の増加など農民の努力によるものです。また、①商工業の発展にともなって茶やみかんなどの穀物以外の商品作物も栽培されるようになりました。

こうした農業の発展につれて、力をたくわえた農民たちは、戦乱から村を守り農業を進めるためにまとまりました。②このような自治的な農民は、最終的には大名たちの武力でおさえつけられましたが、③地域によっては守護大名たちに対抗して自治政治をおこなったところもありました。

- (1) 文中の(A)にあてはまることばを答えなさい。
()
 - (2) 文中の下線①について、交通の要地で年貢の運送や保管などを行う業者を何といいますか。記号で答えなさい。
()
- ア 座 イ 町衆 ウ 問丸 エ 土倉
- (3) 文中の下線②について、農民たちが、村の自治を行うための組織とそのあつまりのことをそれぞれ何といいますか。
() ()
 - (4) 文中の下線③のうち、山城の国、加賀の国でおこった土一揆をそれぞれ何といいますか。
山城の() 加賀の()
 - (5) 將軍の後継ぎ争いや守護大名の勢力争いが原因となって、京都を中心に起こった戦乱を何といいますか。
()

【3】 次の各文は室町文化について述べたものです。下線の部分について、正しいものには○を、誤っているものには正しい語句を答えなさい。

- (1) 武家は公家の文化を取り入れた。また、A 禅宗の影響が文化全般におよんだ。
 - (2) 將軍義政は、応仁の乱後、B 金閣を建て、趣味の生活にひたった。このころの文化をC 北山文化という。
 - (3) 建築では D 武家造という新しい様式が武家の住宅に取り入れられた。
 - (4) 自然の美しさを墨の濃淡でえがく E 大和絵が発達した。そのなかでも、明で学んだ F 鳥羽僧正は日本各地をめぐる風景画に名作を残した。
 - (5) 観阿弥・世阿弥によって大成された G 田楽は、軽い喜劇の狂言と組み合わせて上演された。
 - (6) 庶民の読み物として一寸法師などの H 御伽草子が数多くつくられた。
- A() B() C()
D() E() F()
G() H()

得点	演習問題 (解答)	実施日	月	日	氏名

【1】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

1334年、(①)は年号を改めて、公家と武士をまとめて、自ら天皇中心の政治をはじめました。これを(②)といいます。

しかし③武士の力で鎌倉幕府をたおすことができたのに、公家に有利な政治を行いました。そこで、(④)はこの政治に不満な武士を集めて兵をあげ、天皇にそむきました。天皇は少数の貴族や武士とともに吉野にのがれました。

いっぽう、(④)は京都に別の天皇をたてて政治をはじめ、(⑤)年に征夷大將軍に任ぜられました。このため、2つの朝廷が成立しました。吉野方を(⑥)といい、京都方を(⑦)といい、両者は60年近く対立をくり返しました。

- 文中の(①)にあてはまる人物を答えなさい。
(後醍醐天皇)
- 文中の(②)にあてはまることばを答えなさい。
(建武の新政)
- 文中の下線③に関係の深い人物を次から選んで、記号で答えなさい。
(ア)
ア 楠木正成 イ 山名宗全 ウ 北条早雲 エ 細川勝元
- 文中の(④)にあてはまる人名を答えなさい。
(足利尊氏)
- 文中の(⑤)にあてはまる西暦を答えなさい。(1338 年)
- 文中の(⑥)・(⑦)にあてはまることばを、それぞれ漢字2字で答えなさい。
⑥(南朝) ⑦(北朝)

【2】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

室町幕府の力が、最も強くなったのは、3代將軍(A)のころでした。そのころ、朝鮮や中国の沿岸には、(B)と呼ばれる海賊が現れて、あらしまわっていました。このような動きに対して、①中国の皇帝は、この取り締まりを要求してきました。幕府はこの要求にこたえとともに貿易の利益に目をつけて、②正式な貿易を開始しました。それは、初めは幕府が中心となって行われましたが、のちには細川氏と③中国地方の有力な守護大名の手にうつりました。

- 文中の(A)にあてはまる人物を答えなさい。
(足利義満)
- 文中の(B)にあてはまることばを答えなさい。
(倭寇)
- 文中の下線①について、このときの中国の国(王朝)を何といいますか。漢字1字で答えなさい。(明)
- 文中の下線②について、この貿易を何といいますか。
(勘合貿易)
- 文中の下線③について、この守護大名はだれですか。次から選んで記号で答えなさい。(エ)
ア 武田氏 イ 上杉氏 ウ 今川氏 エ 大内氏

(6)この貿易で生糸、書籍、書画などの他に、最も多く輸入されたものを漢字2字で答えなさい。(明銭〔銅銭〕)

【3】 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

室町時代は農民が成長した時代でした。山上憶良が「貧窮問答歌」によんだ奈良時代の農民の生活とは違って、農業生産の高まりとともに、以前より豊かな生活ができるようになりました。

それは、牛や馬などを使った田畑の耕作、米と麦の(A)、肥料の使用などによる収穫の増加など農民の努力によるものです。また、①商工業の発展にともなって茶やみかんなどの穀物以外の商品作物も栽培されるようになりました。

こうした農業の発展につれて、力をたくわえた農民たちは、戦乱から村を守り農業を進めるためにまとまりました。②このような自治的な農民は、最終的には大名たちの武力でおさえつけられましたが、③地域によっては守護大名たちに対抗して自治政治をおこなったところもありました。

- 文中の(A)にあてはまることばを答えなさい。
(二毛作)
- 文中の下線①について、交通の要地で年貢の運送や保管などを行う業者を何といいますか。記号で答えなさい。
(ウ)
ア 座 イ 町衆 ウ 問丸 エ 土倉
- 文中の下線②について、農民たちが、村の自治を行うための組織と、そのあつまりのことをそれぞれ何といいますか。
(惣) (寄合)
- 文中の下線③のうち、山城の国、加賀の国でおこった土一揆をそれぞれ何といいますか。
山城の(国一揆) 加賀の(一向一揆)
- 將軍の後継ぎ争いや守護大名の勢力争いが原因となって、京都を中心に起こった戦乱を何といいますか。
(応仁の乱)

【3】 次の各文は室町文化について述べたものです。下線の部分について、正しいものには○を、誤っているものには正しい語句を答えなさい。

- 武家は公家の文化を取り入れた。また、A 禪宗の影響が文化全般におよんだ。
 - 將軍義政は、応仁の乱後、B 金閣を建て、趣味の生活にひたった。このころの文化をC 北山文化という。
 - 建築では D 武家造という新しい様式が武家の住宅に取り入れられた。
 - 自然の美しさを墨の濃淡でえがく E 大和絵が発達した。そのなかでも、明で学んだ F 鳥羽僧正は日本各地をめぐって風景画に名作を残した。
 - 観阿弥・世阿弥によって大成された G 田楽は、軽い喜劇の狂言と組み合わせ上演された。
 - 庶民の読み物として一寸法師などの H 御伽草子が数多くつくられた。
- A(○) B(銀閣) C(東山)
D(書院造) E(水墨画) F(雪舟)
G(能楽) H(○)